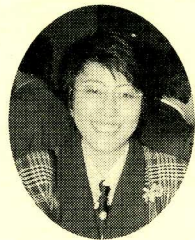


Mail Box

前略 会員の皆様へ〈第3信〉

WSFジャパン代表

三ッ谷洋子



もう秋、ですね。お元気ですか。前号のこの欄で私がミットヨという会社の企業理念に共鳴した話を書いたところ、テレビ朝日の宮嶋（泰子）さんから電話をいただきました。「ウチの隣にあるビルの会社です。でも、そのような会社だとは知らなかった」そうです。専門メーカーなので、知らないのが普通でしょう。宮嶋さんは女性スポーツキャスターの草分けで現在、「ニュースステーション」のディレクターとして、スポーツの番組制作に携わっています。ついでに近況報告ということで「8月末か9月上旬に米国女性スポーツ界のかつてのスーパースター、ベイブ・ザハリアスを番組で取り上げるのでぜひ見てください」とのことでした。

◇

ミルドレッド・ベイブ・ディドリクソン・ザハリアスは1914年、ノルウエー系の両親のもとに生まれました。小さいころから並はずれた運動能力を発揮し、ハイスクール時代はバスケットボールで全米選抜チームに選ばれています。その後、陸上競技に転向し、1932年のロサンゼルス五輪の国内予選では、7種目に出場して、なんと5種目に優勝（80メートル障害、やり投げ、ボール投げ、砲丸投げ、走り幅跳びの計5種目。このうち3種目は世界記録）。本番でも80メートル障害に金メダル、走り高跳びで銀メダルの大活躍でした。

この時、18歳のミルドレッドは身長170センチ、体重60キロ。女性にしては大柄で、毛深かったせいか、このスーパーウーマンに対し、当時のスポーツ記者は「彼女は男性ではないか」と、疑いの目を向けたと手元の文献にあります。彼女はその後、プロレスラーのジョージ・ザハリアスと結婚しました。

スポーツでの活躍は、さらに続きます。バスケット

ボールや野球チームでプレーした後、1934年、20歳でゴルフを本格的に始め、翌1935年にテキサス州女子選手権に優勝。プロに転向し、男子トッププロのジーン・サラゼンと組んで、エキシビション・マッチをしながら、全米を旅行して回ります。

私が彼女の足跡を知ったのは10年以上も前のことです。米国の女性スポーツ界には、本当に素晴らしい先輩がいるものだと、とてもうらやましく思ったものです。彼女はスポーツ選手として超一流だっただけでなく、1949年にゴルフ用品メーカーのウィルソンなどの協力を取りつけ女子プロゴルフ協会（LPGA）を結成し、女子プロゴルフ発展の礎を築きました。私の記憶では、米国女子プロゴルフツアーに、確か「ザハリアス・キャンサー・クラシック」というガン撲滅のためのチャリティ・トーナメントがあります。これは、彼女がガンに冒されながら一度は復帰してプレーできるようになった時に開催を提唱したものだと言いました。

宮嶋さんの作られた番組は8月末に、「ニュースステーション」の中で放映されました。生前の映像と肉声、友人のインタビューなどから、女性スポーツの歴史の1ページを飾ったスーパーウーマンの一生が、とても良くまとめられていました。

スポーツを発展させるうえで大切なことの一つは過去を検証し、歴史の中に埋もれている人物の足跡を掘り起こすこと。その意味では、例えばオリンピックで人見絹江は初の日本女子選手として出場し、銀メダルを獲得したというだけでなく、他の女子選手の出場にも多大な尽力をしました。大会が開催される4年ごとに思い起こされ、偉業が語り継がれるべき女性といってもよいでしょう。若い選手には、もっとスポーツの歴史教育を！